

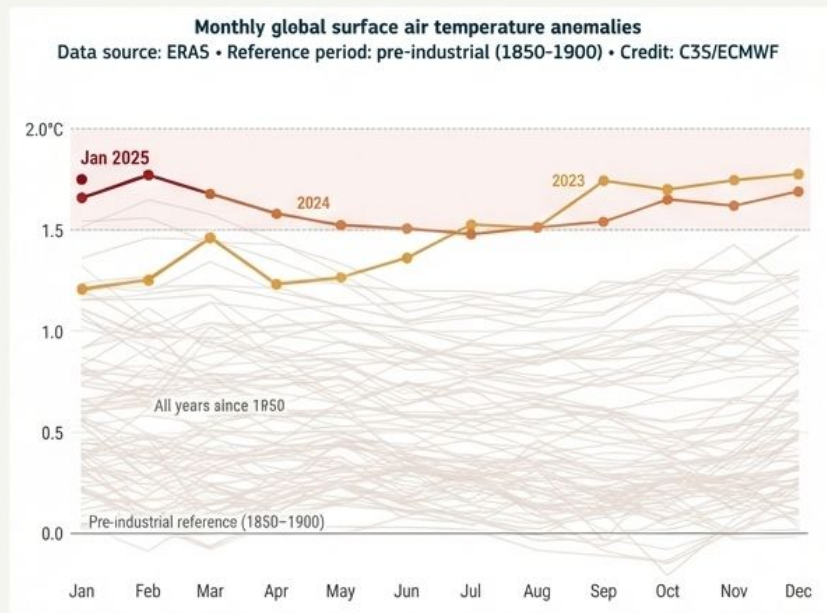
100年後も地球と生きる

paramitaは、人口減少社会と気候変動の時代を生き延びるために、
「**自然が再生し続ける世界**」と「**地域経済が持続する未来**」を両立させます。

個人、企業、自治体、研究者、アーティストなど多様な主体が交わり、
生命（いのち）を中心に据えた関係性をデザインすることが私たちの役割です。

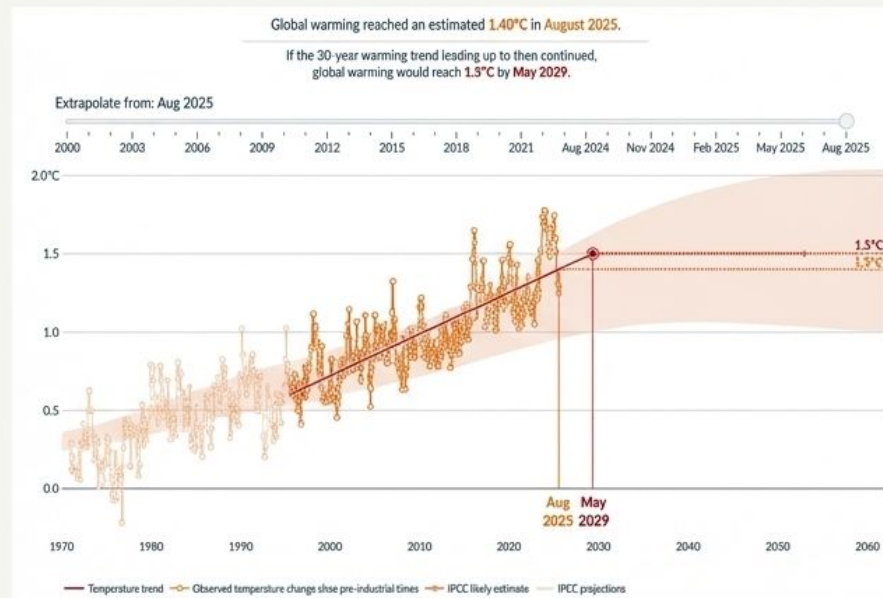
無目的な利便性の向上や単なる経済合理性の追求ではなく、
身近な暮らしの課題から地球規模の問題までを結びつけ、
何かを犠牲にすることなく連鎖的に解決していく共創のプラットフォームとなります。

気候変動問題の現在地：地球は後戻りできない地点に近づいている



2025年1月の世界気温、産業革命前を1.75°C上回る：史上最高温

2025年1月は世界的に最も暖かい1月となり、過去19か月のうち世界平均地表気温が産業革命以前の水準より1.5°C以上高かった連続18か月目となった。

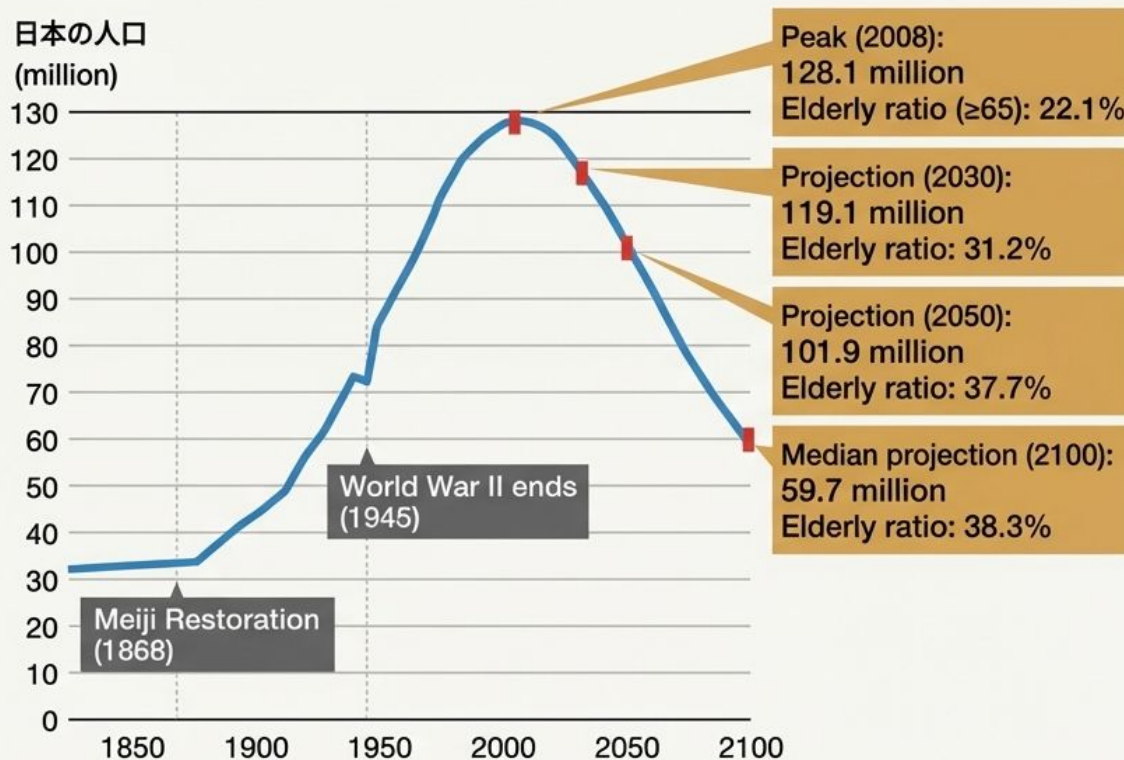


2029年5月には1.5°C目標を超える

このままの傾向が続けば、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が示す1.5°Cの閾値を2029年5月には恒常的に超えると予測される。これは「Hothouse Earth」への連鎖的なフィードバックループを引き起こす転換点となる可能性がある。

日本の人口減少と超高齢化：根底から揺らぐ社会基盤

日本の人口は2008年の1億2810万人をピークに減少し、2050年には1億190万人（高齢化率37.7%）、2100年には5970万人（高齢化率38.3%）まで減少すると予測されている。これは税収減と社会保障費の増大を意味し、多くの自治体で従来の行政サービスやインフラの維持が困難になることを示唆している。



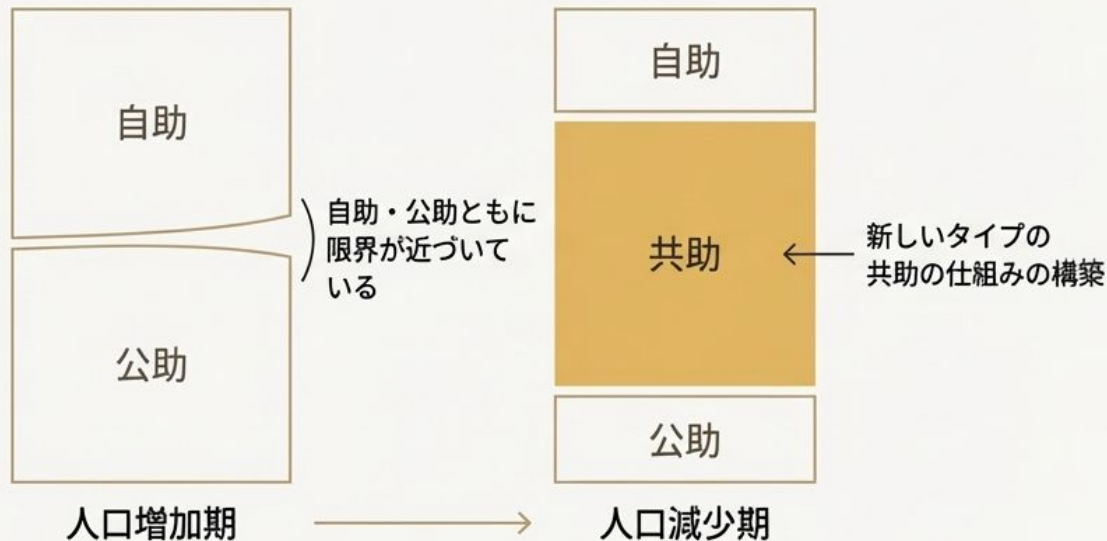
Created by the author based on the Long-Term Analysis on Population Distribution in Japan (National Land Agency, 1974); additional data for 1920 onward from the National Census and the Revised and Interpolated Population Figures for the 2005 and 2010 National Censuses (Ministry of Internal Affairs and Communications) and Population Projections for Japan (National Institute of Population and Social Security Research, 2017).

これまでの仕組みの限界

人口増加期に最適化された社会システムは、自助・公助ともに限界を迎えつつあります。

市場原理は人口減少地域から撤退し、行政サービスも縮小せざるを得ません。

この構造的な問題を解決するには、個別の事業や課題解決だけでは不十分です。

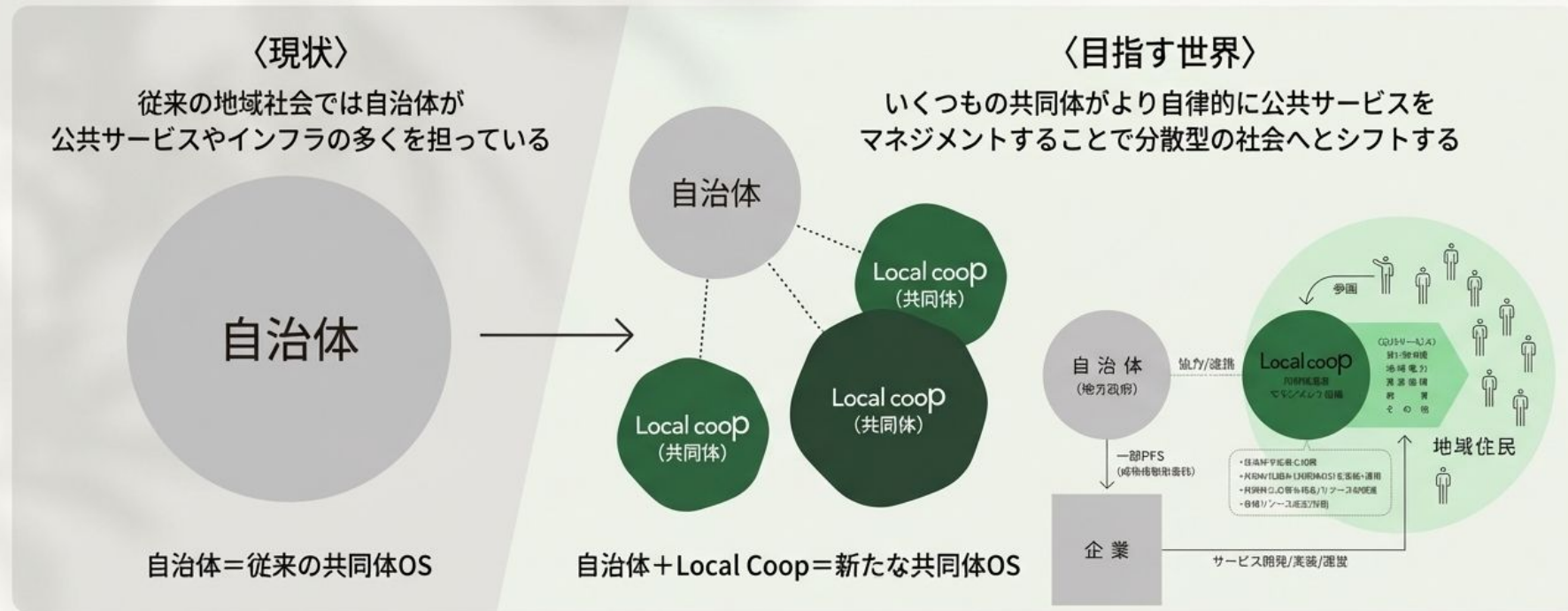


私たちに必要なのは、社会のOSそのものをアップデートすること。
すなわち、住民、企業、行政が連携し、共助の仕組みを再構築すること。

Local Coop（ローカルコープ）：第二の自治体の実装

Local Coopは、従来の自治体機能の一部を補完・代替する「第二の自治体」です。

これは、行政サービスを住民と民間企業が主体的に担う、自律分散型の共同体運営システム（共同体OS）です。



税収以外の財源を確保し、地域のインフラやサービスを共助によって維持・運営することを目指す。

実証エリア



Tsukigase
Population: 1,200



Tatsugo, Amami
Population: 6,000

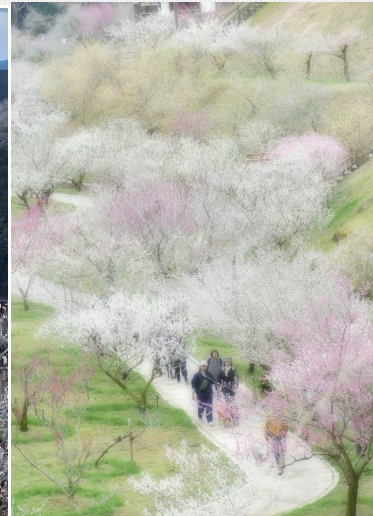
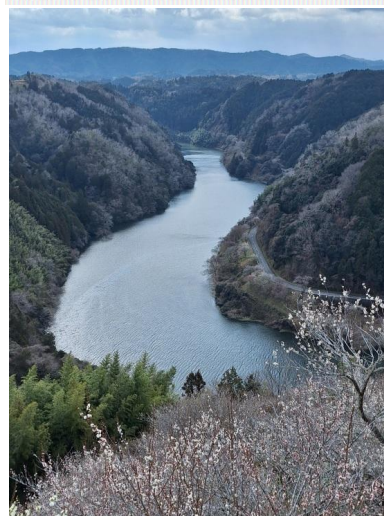
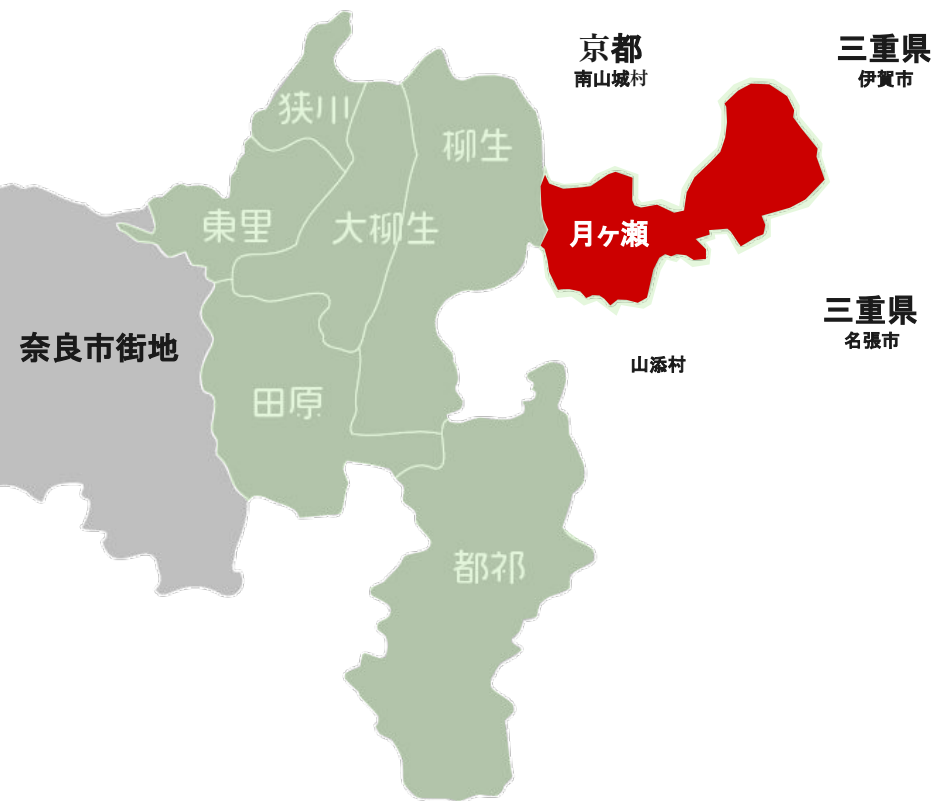


Misakubo
Population: 1,600



Owase
Population: 15,000

奈良市東部地域 = 大和高原



月ヶ瀬

Tsukigase

- ・奈良県北東部に位置する中山間地域
- ・2005年4月1日に奈良市へ編入合併
- ・6集落 / 494世帯 / 人口1,171人 / 高齢化率49.2% (2025年5月1日現在)
- ・主な地域資源: 茶、梅林
- ・月ヶ瀬梅林は日本で初めての名勝地の1つ

(参考) greenz.jp取材記事

行政に任せていた「自治」を、自分たちの手に取り戻そう。

中山間地域の未来の暮らしのモデルをつくる「Local Coop 大和高原プロジェクト」の挑戦



烏梅



大和茶



奈良晒



温泉

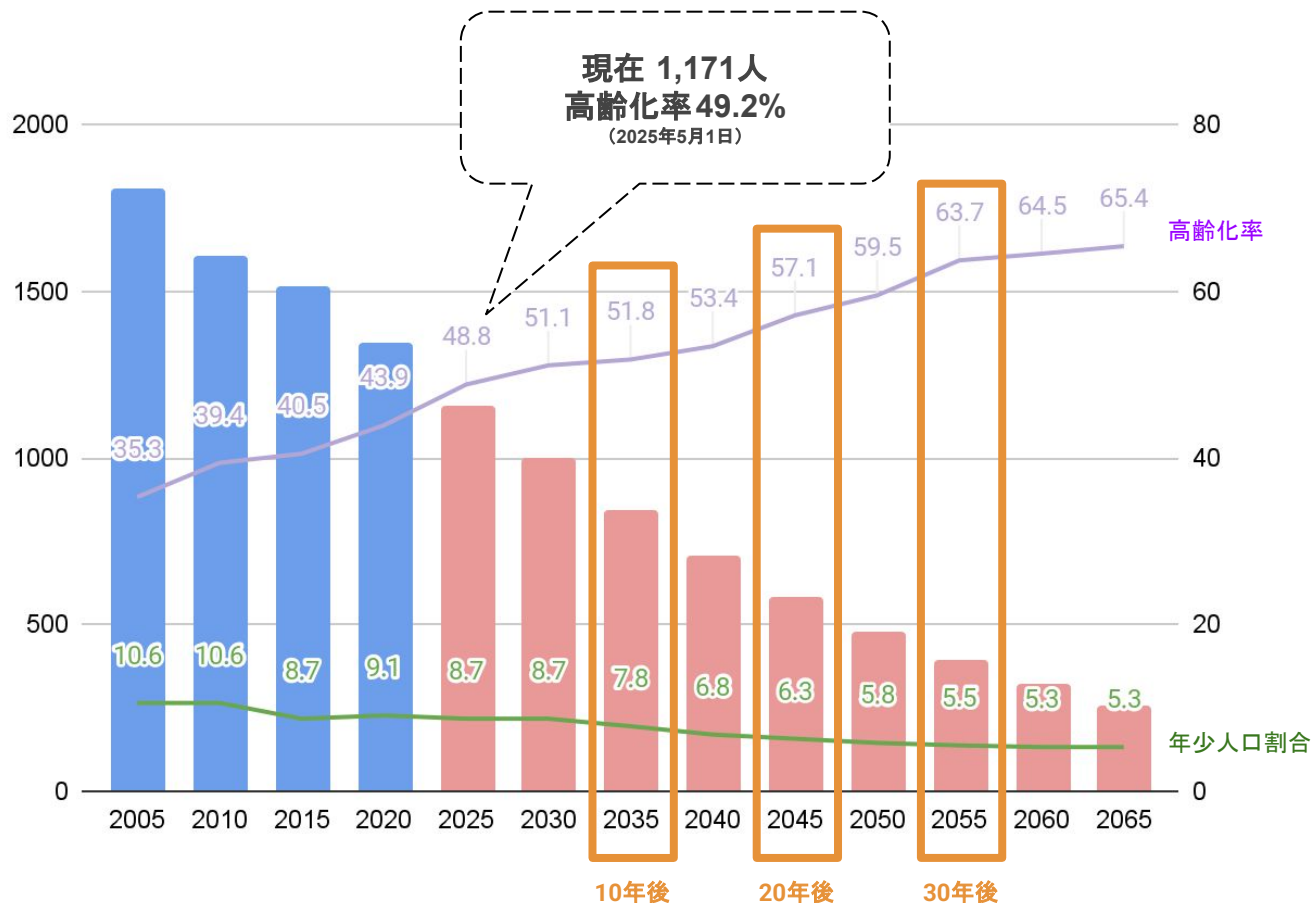
月ヶ瀬の将来推計人口



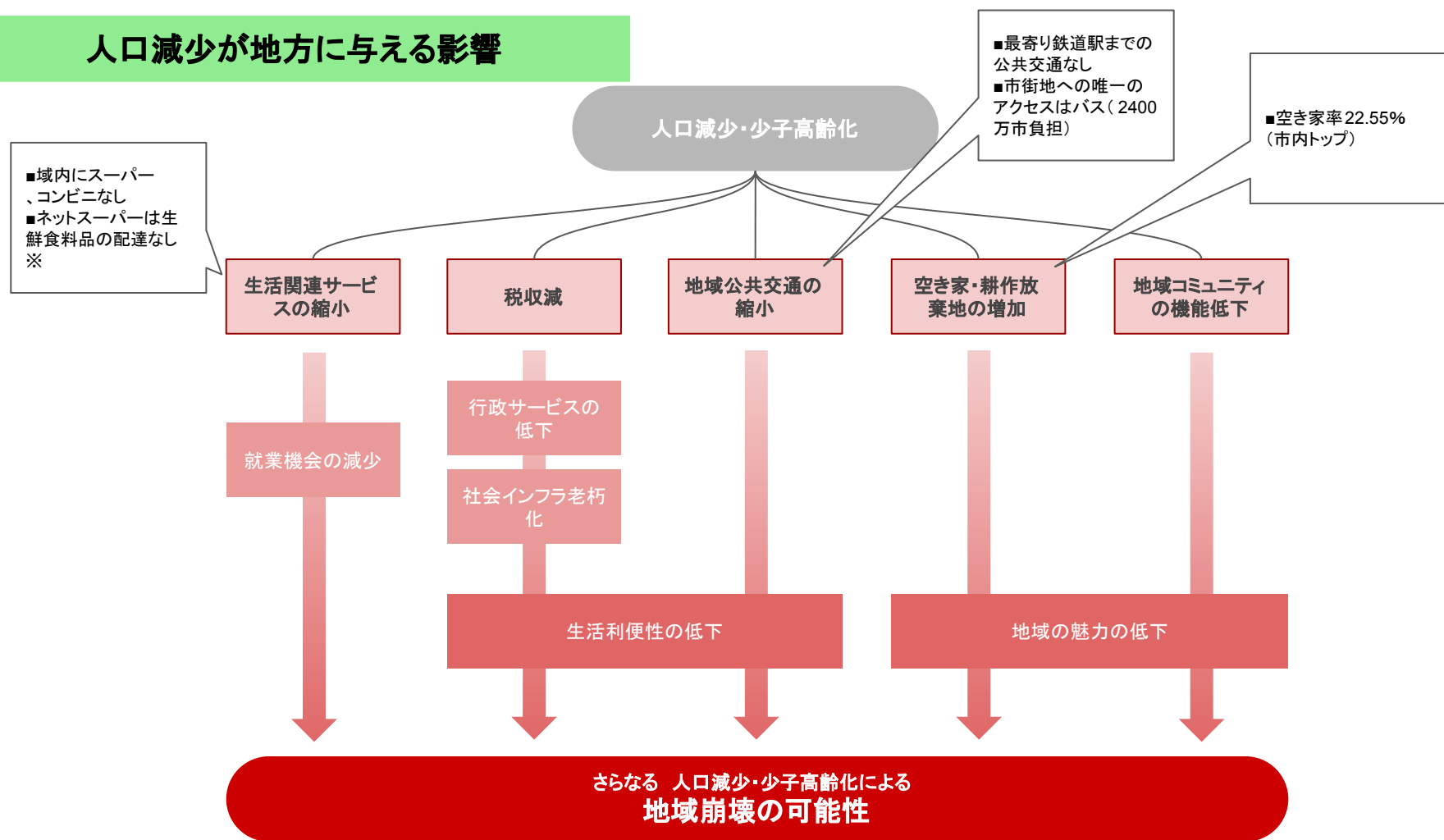
昭和46年 月ヶ瀬小学校新校舎落成



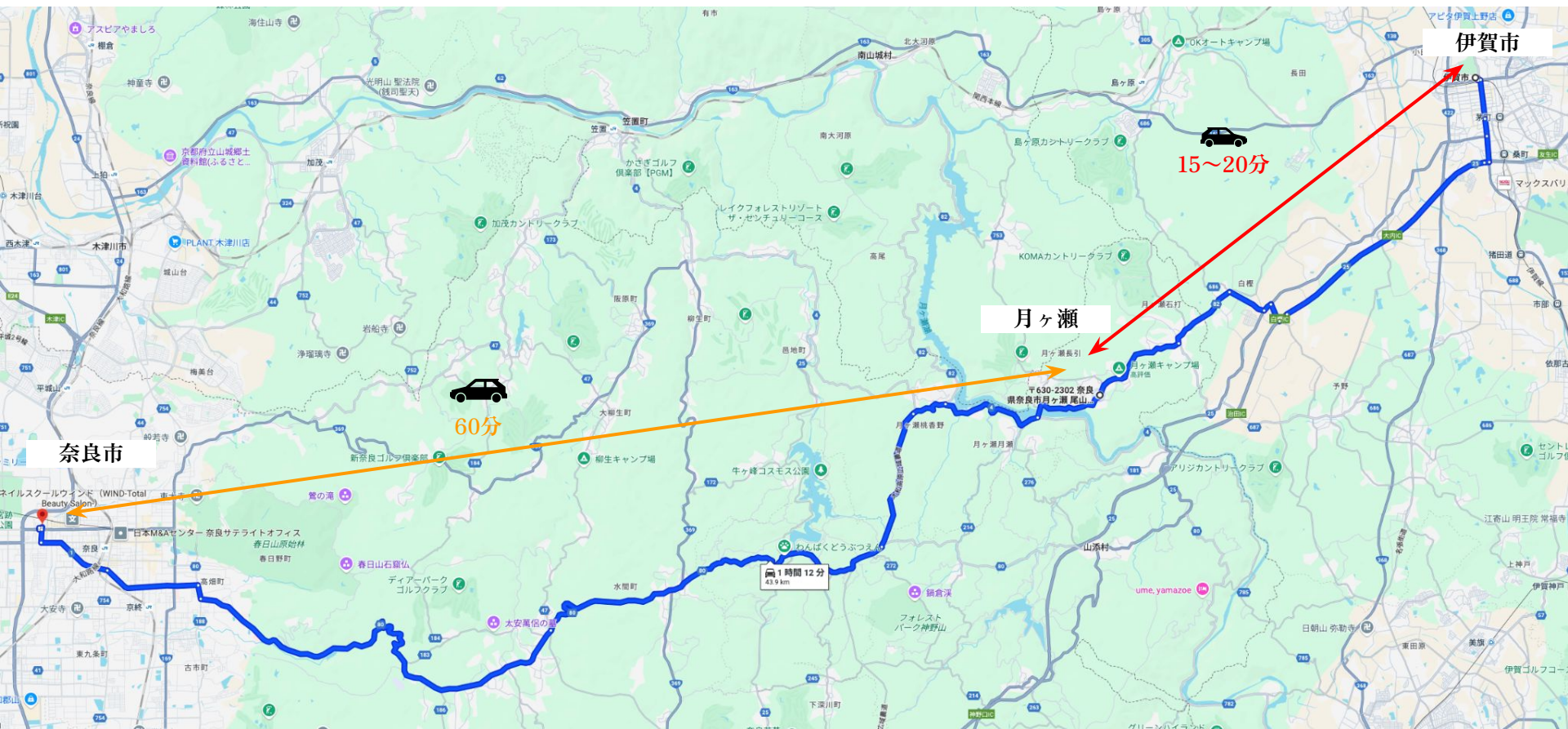
昭和59年 第39回わかくさ国体
(上皇陛下・上皇后陛下)



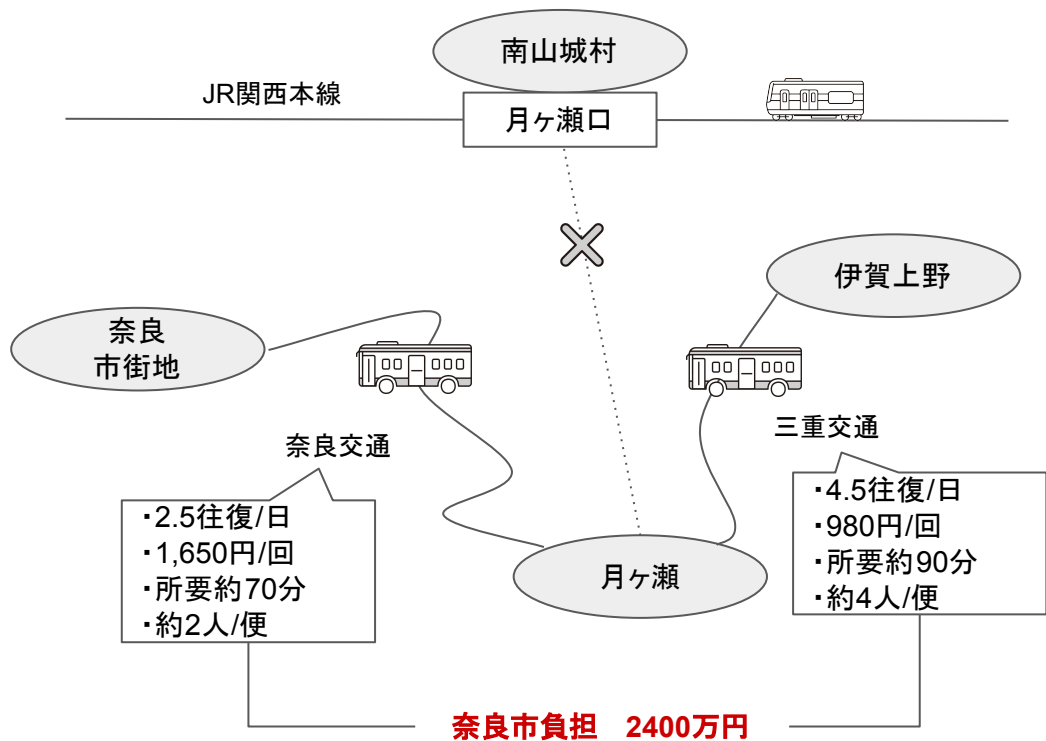
人口減少が地方に与える影響



市街地へのアクセス



月ヶ瀬の交通状況



月ヶ瀬地区の路線バスの運行状況(市からの委託により運行)

月ヶ瀬地区のバスの運行状況

令和4年度市予算:23,476千円

本数は少ないものの、赤字相当額の行政負担により路線バスの運行を維持

奈良交通路線バス運行状況

尾山診療所前→奈良良駅西口行き

時	平日	土日祝日
11時	18分	18分
15時	11分	20分

2便

尾山診療所前→石打行き

時	平日	土日祝日
10時	33分	33分
14時	7分	7分
18時	39分	39分

3便

三重交通路線バス運行状況

尾山診療所前→上野市駅(方面)行き

時	平日	土日祝日
7時	12分	—
8時	7分	7分
9時	42分	42分
12時	42分	42分
14時	57分	—
15時	—	42分
16時	42分	—

上野市駅
行きは
平日5
便、
土日祝日
4便

尾山診療所前→桃香野口行き

時	平日	土日祝日
7時	42分	—
12時	9分	9分
14時	30分	—
15時	—	10分
16時	4分	—
17時	—	29分
18時	14分	—

桃香野口
行きは
平日5
便、
土日祝日
3便

1日2.5往復の運行のみ

柳生地区(邑地中村)から月ヶ瀬地区への運行について、年間約1,100万円の市からの行政負担が発生

令和3年度年間利用者:3,560人
1便平均:約2人

上野市駅~月ヶ瀬地区は 平日4.5往復、土日祝日3.5往復の運行のみ

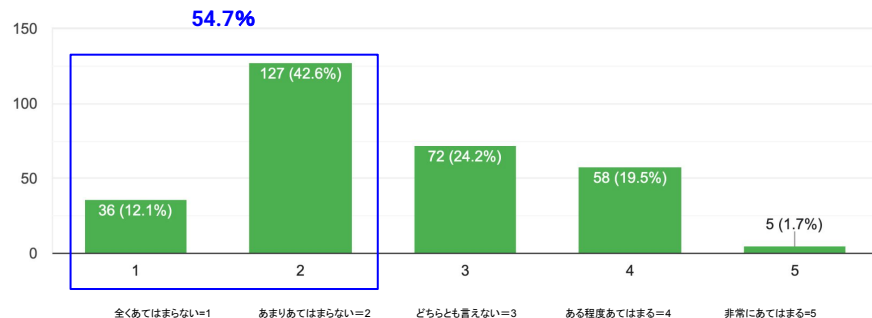
上野市駅から月ヶ瀬地区への運行について、年間約1,000万円の市からの行政負担が発生(伊賀市もほぼ同額の負担)

令和3年度年間利用者:13,652人
1便平均:約4人

住民の意識(医療・交通・買物・雇用)

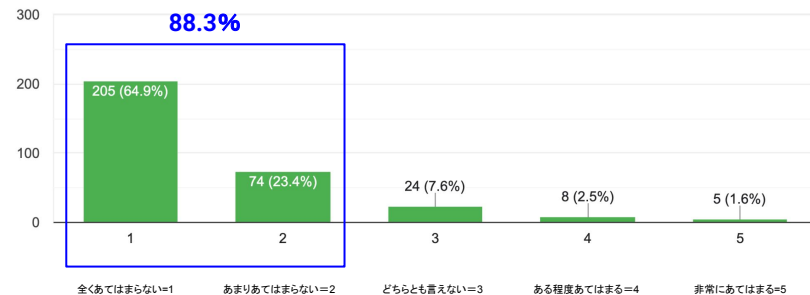
5. 暮らしている地域は、医療機関が充実している (医療・福祉)

298 件の回答



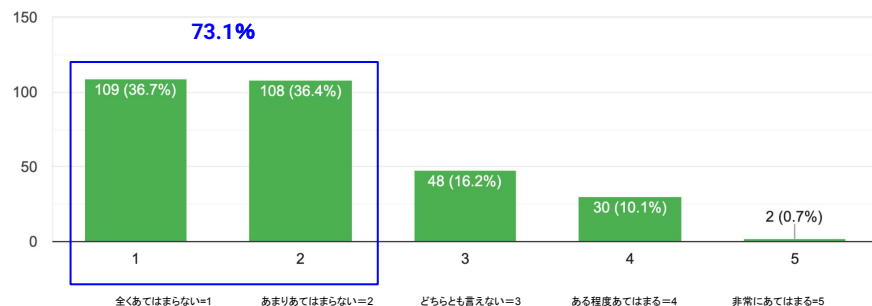
12. 私の暮らしている地域では、公共交通機関...時に好きなところへ移動ができる (移動・交通)

316 件の回答



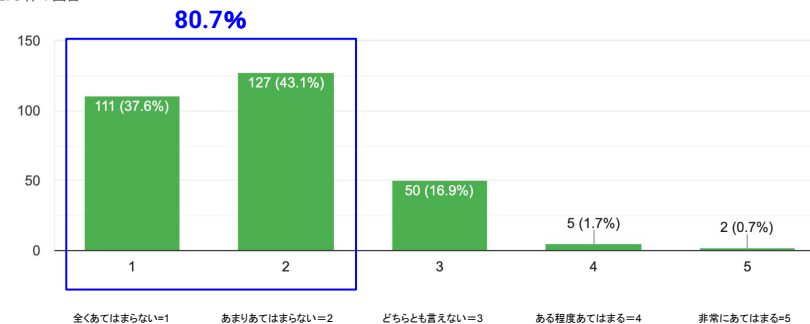
7. 暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない (買物・飲食)

297 件の回答



48. 私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい (雇用・所得)

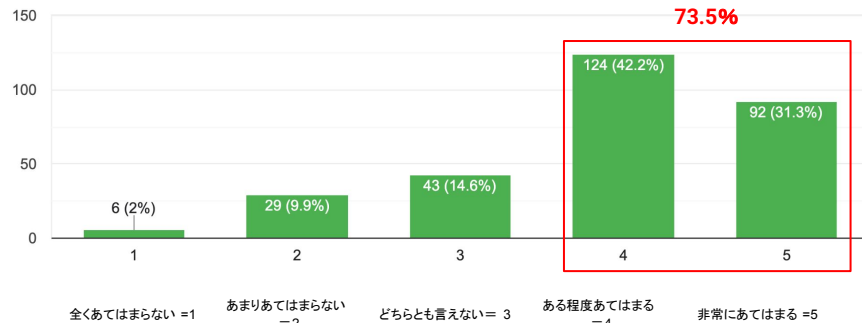
295 件の回答



住民の意識(自然・文化・つながり・住み続けたいか)

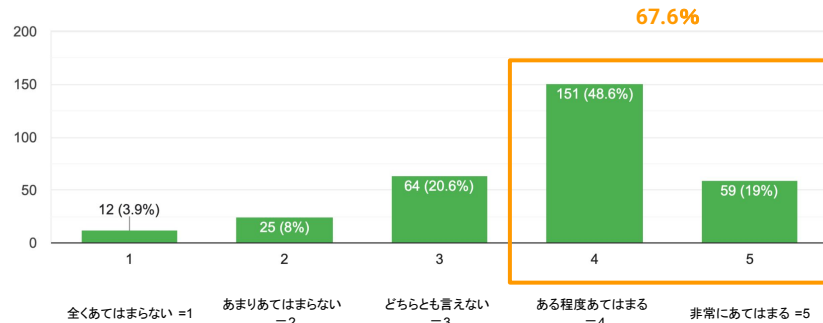
25. 私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある(自然景観)

294 件の回答



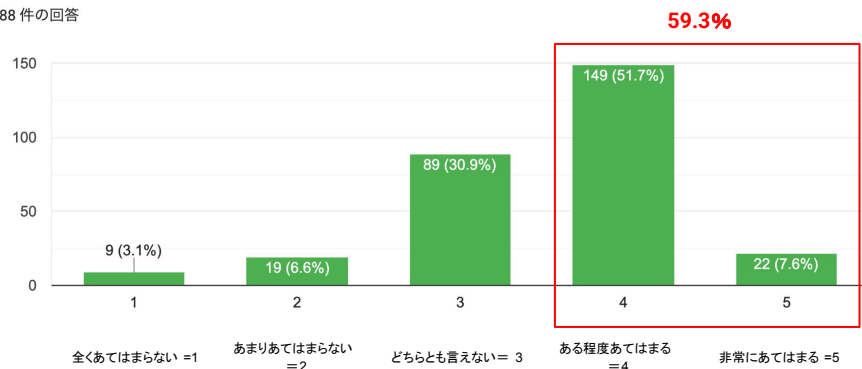
46. 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい(文化・芸術)

311 件の回答



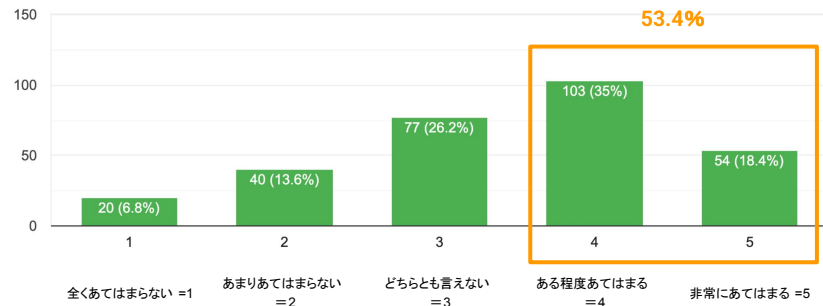
35. 私は、町内(集落)の人が困っていたら手助けをする(地域とのつながり)

288 件の回答



51. あなたはこれからも月ヶ瀬地域に住み続けたいと思いますか(追加)

294 件の回答



プロジェクト推進体制



月ヶ瀬での取り組み



LocalCoop大和高原
プロジェクト

月ヶ瀬

都市



関係人口創出

自治の再構築

運営・ガバナンス

共助実装

持続可能な行政・生活サービスの実装

共助実装

自然共生社会の形成
(再生可能エネルギー・生物多様性・サーキュラーエコノミー)

市委託

自分ごと化会議

大和高原直送便
(共助型物産販売)

おたがいマーケット
(共助型買物支援)

市委託

コミュニティバス運行业務

市委託

再生資源収集運搬業務
(MEGURU BOX)

MEGURU-BIO
(バイオガス施設)

滞在拠点整備

生物多様性サイト整備

構想日本連携事業



日本郵便連携事業



自治会連携事業

アミタ連携事業
MEGURU STAION

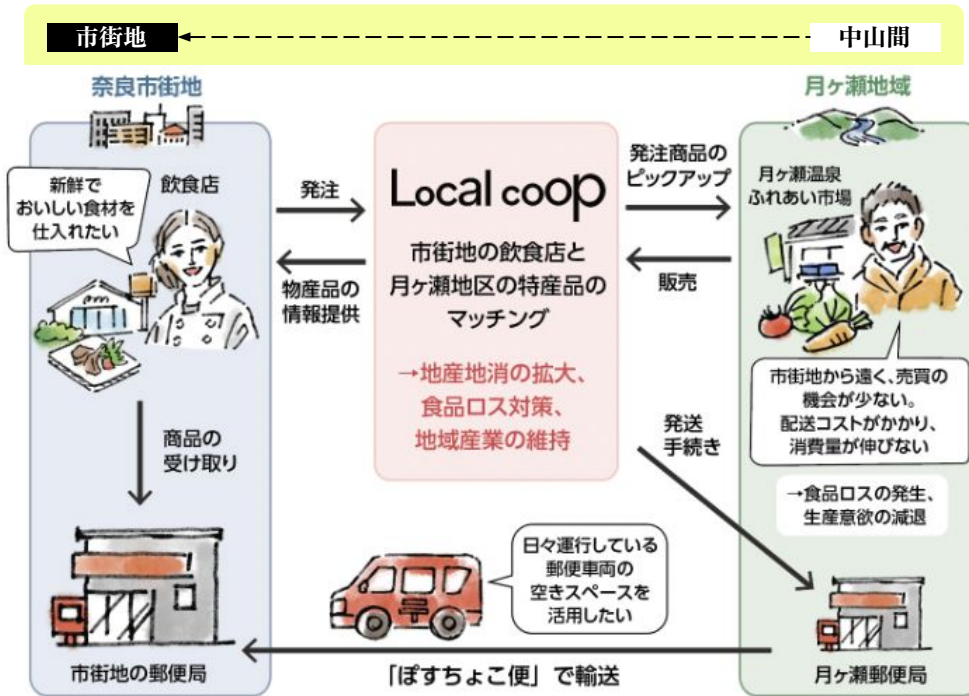


ミツ輪ホールディングス
連携事業





『菜宴』月ヶ瀬特産品を使った料理
「シイタケのアヒージョ」



受注と特産品ピックアップ



配送される様子

コミュニティバスの運営主体が月ヶ瀬行政センターから一般社団法人ローカルコープ大和高原に変更となり、すべての月ヶ瀬住民を対象とした定時循環型コミュニティバス「ぐるぐる月ヶ瀬」に新しく生まれ変わりました。

地域のニーズに合わせた運行に。

奈良市直営時

LocalCoop

診療所
学校送迎 → 各地区の循環

週に1回 → 週に3回

定時運行 → オンデマンド



株式会社アミタHDをパートナーに迎え、共助互助コミュニティ機能をもつ再生資源回収ステーション「MEGURU STATION」を各自治会館に設置。24時間365日の再生資源の搬出を可能とすることで利便性の向上と再生資源の搬出行為を通じた住民の日々のコミュニケーション向上を同時に達成します。

また、回収した再生資源は売却し、売却益を一社LCYの活動資源とすることで域内循環システムを構築します。

利便性を担保しつつの効率化と財源の確保。

36カ所	→	6カ所
決まった 曜日の朝	→	24時間 365日
まとめて 売却	→	地域単位 で売却



生物多様性の森づくり

自然共生社会の形成

生物多様性向上に向けた実践と、地元住民を巻き込んだ勉強会の開催

生物多様性の森づくり



自然共生サイト活用セミナー



セルフビルドによる滞在場所の整理

関係人口の創出を目的とした滞在場所の整備

セルフビルドハウス



自然共生社会の形成



『ローカルコープが来られて、全く私の個人的な感想なんですけど、なにかが月ヶ瀬の中でちょっとずつ変わってきたかなと実感を受けているんですよ』

『（地域の中にあるしがらみなどの）見えないガラスを破りたい。ローカルコープと一緒に、公助があんまり頼りにできない時代という意味でも良い地域にしていけるんじゃないかなっていう、希望を私は持ちました』

徴税と再分配のデザイン



環境価値・カーボンクレジット



関係人口・企業

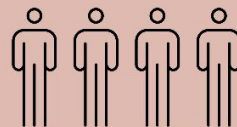


公共サービス
自主運営による収益化

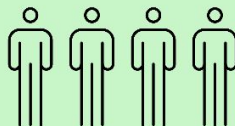
資金と資源
のプール

QF

(Quadratic Funding)



- ・インフラ
- ・自然資本（里山・里海）
- ・独自の助成金
- ・教育
- ・OSS



Local coop